

幼児と自然

佐々木淑子

「幼児と自然」という大きな題目をかかけて研究発表をすることになっておりますが、私は、経験も少く、まだ研究らしい研究にもなっておりませんので、今ここで、皆様にお話申上げるのは、本当に潜越なことと恥かしく思っております。しかし、折角与えられた機会ですので、わずかながら、今までに考えてまいりましたことをおききいただいで、皆様方から御批判、御指導いただきましたり、幼児の自然観察についての皆様の御経験や御意見なども、おきかせいただけたら幸々と思ってお話申上げるわけでございます。

「幼児と自然」と申しますと、非常に範囲が

広いのですが、今日、ここでは、幼児の自然に対する興味について、考えましたことをお話しすることに致します。

対象は、私の現在受持の組の子供で、昨年三年保育に入園した十四名(男七名、女七名)と、今年二年保育で入園してこれに加わった二十一名(男十名、女十一名)の合計三十五名であります。

保育に当って、いかなる場合にも、子供の興味を知り、その興味に応じて指導することが大切なことは、云うまでもないのでありますが、自然観察の指導の場合も、子供の興味が、どんなものに対して、どのようにあるかを知らなければ、適切な指導が出来ないことは当然であります。そこで、何とかして子供の興味をはっきりつかみたいものと思ひ、いろいろその方法を考えてみましたが、なかなかよい方法が考えつかず、昨年、三年保育の組を受持つことになりましたから、とにかく保育の間々に、子供があらわす自然に対する興味と関心を記録してあつめてみたら、何かつかめるのではないかと思ひ、出来るだけ努力してまいりました。

それから、今年の四月、新入園児を迎えた

時に、こんなことがありました。その一つは、入園してから三日間、朝来ると、きまって同じ席にこしかけたきり、遊びにさそっても入らず、何かきいても首返事だけという女児がおりました。こういう子供は、別に珍らしい例でもなく、新入の時は、よくある子供と思ひますが、その女児を四日目に、ようやくお山へつれ出すことが出来て、一緒に行きました時に、途中で、私が、もんしろちようをつけてつかまえました。「ほら！」とその子供に見せると、「あ、ちようちよ、あたしにもたせて」と目を輝かせていうのです。そのちようちよをつかませると、よろこんで、そのの上に行った時は、「きれいなお花のあるところがいいわ」と自分から言い出して、花をつんでは、ちようちよに近づけてやったりしてよろこんでおりました。それを機会に、その女の子は、私や他の子どもとも口をきくようになり、その後、山からおりてから、入園してはじめて、砂場で遊びました。もう一つは、その反対の例で、或日、その朝だけ、お母様と離れ難かった男の子がりました。が、ようやくはなれて、入口に一人で立って

いたのを、私は、何とかしてお部屋の中へよぼうとして、丁度その朝、他の子供が、あげはちょうをもつて来てあつたので、「ちょうちよがいるのよ、来てごらんさい」とよんだのですが、入って来ないので、「ほら、みてごらんさい」と、そのちょうちよを、そばに持って行ったところ、その子供は、「わあー」と泣き出して、どんと廊下を走って行って、まだ玄関の辺りにいらしたお母様にくつついて、それからしばらく離れないで困ったことがあります。その時に、お母様から、その子供は、ちょうちよを気味わるがるのだということを書いて、失敗したと思いましたが、この二つのことから、子供の興味や、生き物の好ききらいを知っておくことは、特に新入の子どもを扱う場合に必要であると痛感したわけでありませう。

そこで、子どもの興味を知るには、幼稚園における子どもの活動を私共が観察して知ると共に、家庭に於て表す子どもの興味も調査する必要がある、特に、今のように入園児の場合にそうであり、また、幼稚園とはちがう環境で、幼児の興味をひいているものに、どんなものがあるか、家庭や外の環境に、幼稚園にはない興味の対象があるのではないかと

思いまして、五月初めに、家庭へ質問紙を出して調査致しました。その調査結果と、毎日の幼児の活動の記録などから、考えられたことを、これからお話ししようと思います。

『お子様は、次にあげたもののうち、何に對して興味を強くもっていますか。順位と、どのように興味をもっているかを、お書き下さい。』

花・虫・魚・とり・どうぶつ・機械・乗物・その他』

《男児》

第一に乗物をあげている者が十七人中十六人。他の一人は虫であり、この子どもだけ、一寸傾向がちがっていきまして、第二にとり、第三に魚、第四に乗物となっています。

第二に機械をあげている者が、第一に乗物をあげた十六人のうち九人で、他の七人は動物で、しかも大きい動物とことわっているものが多い。

第三に虫をあげている者が五人、機械をあげている者が二人、花をあげている者が三人となっています。

男児では、圧倒的に、乗物・機械に対する興味が強くと、花に對しての興味は、第三番目になつて三人あげており、花に對して興味なしという答が、三人あります。尚、機械への興味の中には、おもちゃの構造をいじくつて調べることや、大工仕事の興味も含まれております。

《女児》

第一に花をあげている者が十八人中十四人。他は乗物一人、動物一人、虫一人、その他一人。

第二には、いろいろあがっていますが、第一番に花以外のものをあげた者四人のうち二人は、第二に花をあげています。

女児では、圧倒的に花に對する興味が強く、機械・乗物に全然興味なしという答が、八人あります。そして、女児の場合は、動物でも小さい動物や、生きてゐる動物よりも、縫ぐるみの動物の方に興味ありと註釈つきの返答が三つあつたことは、面白く思いました。又、第一にその他をあげた一人の女の子は、他の子どもとちがって、花にも興味なし

で、返答には、ピニールをあむこと、リズムにあわせて動くこと、楽器をひくこと（これは、お姉様二人が、最近、ピアノとバイオリンを習いはじめたので）などと、佐々木先生

ました。この子どもの関心を自然へ向けるにはどうするか、これからの課題と思っております。

すが、途中の木や花に子どもの関心を向けるようにして歩いておりました時、電気室の前を通った時、中からモーターの音がしておりましたところ、男の子が「あ、モーター！」と叫んで、顔を輝かせていたことがあります。

のことも、とあがっております。他の子どもたちも、それらのことに強い興味をもっていることは云うまでもなく、私の質問が自然物や乗物・機械だけについてであったので、そういうものをあげなかっただけだと思いますが、この子どもを幼稚園でみておきますと、

先生が女であるせいか、男の子向きの材料が少いのではないかということです。男の子にこれほど強く興味を持たれている乗物や機械類についての興味を満足させるような経験をさせることが、幼稚園では少いように思います。このことは、自然という範囲からは、一寸外れるかとも思いますが、他に、こういうことを取り上げている部門がありませんので、広く科学的な関心という意味で、自然観

また、保育室の戸棚のひきだしから磁石を採り出した男の子が、すっかり面白くなったらしくて、いろいろのものにくっつけてためしてみているうち、しまいに女の子の頭にくっつけようとしたらしく、さかんに磁石で頭をつついて、女の子を泣かしたことがありました。

いる時も、一人で私の足をくすぐったりしてよろこんだり、先日も、はつかねずみをはじめてお部屋へ持って来た時、どの子どもも、非常によろこんで、一日中、はつかねずみを

察の中に入れて考えたいと思います。そこで、丁度、玩具の電話機がこわれた時に、それを自由にいじらせてみましたり、小さい車や板の切れはしなどと、かなづちなどを用意しましたところ、男の子たちは、殆んど一日中、けんかもしないで、トンカチ、ト

理屈はわからない年令ではありますが、これほど強い関心をもっているものであるならば、その興味を十分に満足させるために、機械類などに親しませる経験も必要なのではないかと思えます。今後、幼児の力で分解したり、組立てたりして楽しむことのできる簡単な機械のおもちゃや道具などを考えたいと思います。

気にして、のぞいたり、ついたりしておりましたが、そういう時でも、その子どもだけは見向きもしません。丁度、私のはつかねずみを見ているところへ寄って来ましたので、「ほら、なっぱをたべているわ」などと言って、関心を向けさせようとしたが、全然見もしないのです。そして私の手をいじったり、全然ちがうことを話しかけたりしており

走らせて遊んでおりました。又、三年保育の時ですが、本校のグラウンドの方へ散歩につれてまいりました時のことで

次に、興味のない子どもにも興味をもたせるには、どのようにしたらよいか、当然考えることであります。

そのためには、子どもが興味をもつ原因、又は興味をもたない原因が何であるかを知らなければならぬと思ひ、それを知る一つの手がかりになるかと考へて、次のような質問も出しました。(この質問では、生物のことだけをとりあげました。)

一(1)おうちで飼っているいきもの
名、数、主として世話をする方

(2)それらにお子さんは、どの位関心をもっていますか。

お子さんが世話をすることがあります
か、その程度。

二(1)おうちで草花をうえていますか。その程度。

(2)それらにお子さんは、どの位関心をもっていますか。

お子さんが世話をすることがあります
か、その程度。

三お子さんは、おうちの庭や近所で、草つみや虫とりをなさいますか。その様子をおかき下さい。

四とつて来た花や虫はどのように処分されますか。

五おうちの方で、特に、いきもの(虫なども

含めて)の好きな方、又はきらいな方がいますか。どなたが、何を、好きかきらいをおかき下さい。

六おうちの方のみで、お子さんは、特にいきものが好き又はきらいとお思ひですか。特に、何を好きか、又はきらいをおかき下さい。

七きらいになった原因に思ひ当ることがありますか。はちにさされたことがあるなど、時期その他具体的におかき下さい。

これらの質問の返答を綜合してわかりましたことは、

・子どものいきものすききらいについて、
家の人のきらいなことが影響してきらいになったと思われるもの

男児ではきらいな件数の 二〇%
女児ではきらいな件数の 五〇%

家の人のすきなことの影響してすきになったと思われるもの
男児ではすきな件数の 二〇%
女児ではすきな件数の 三〇%

きらいになるための直接原因があつてきらいになったもの

いになったもの

男児ではきらいな件数の 五〇%
女児ではきらいな件数の 三〇%
という結果になっておりまして、男児では、

きらいであることの五〇%は直接原因によるものであり、女児では、同じく五〇%が家人がきらいであることによるものであり、男児よりも女児のほうが、人の影響をうけることがあらわれて、おもしろく感じました。

・幼稚園で入園当初から非常に自然に對して興味を示した子どもと、全然示さない子どもについて、その原因

特に顯著に興味を示したほうの子ども
男児一人
特別に原因となるものが考えられない。
女児二人

一人は、兄が虫が大好きである。
もう一人は、父が採集と飼育の会の会員であつて、非常な関心をもっていることが一つの原因でもあるらしいと思われ

した。
特に興味を示さないほうの子ども
男児三人 三人共、共通に、家の中と庭

でしか遊ばせなかったことが原因として
考えられ、

女児一人 原因となるものが考えられな
い。

(この興味を示さない子どもという中に
は、虫をこわがる子どもは入れてありませ
ん。)

・家庭で、何か飼ったり、栽培したりしてい
ることが、幼稚園で栽培したり飼育したりす
ることの関心と関係があるかどうか。

これは、あまり関係はないようで、只、関心
というよりも、扱い方の点では、当然のこと
であります。例えば、家で小鳥をかってい
る子どもは、子とりの世話の仕方を心得てい
るので、そういうことに気がつく、というよ
うなことがみられております。

そこで、私共の一番の問題は、自然への興
味関心の強い子どもをどのようにのぼすか、
又、関心のうすい子どもに関心をもたせるに
は、どうしたらよいか、ということになりま
すが、前者については、まだお話しするほどに
至っておりません。後者の方の指導について

私のとりました方針は、

第一に私自身の態度、

第二に環境をゆたかにする

第三に子供自身の体で経験する

ということであります。具体的に申しますと、
私自身が、つとめて自然に関心をもつように
し、子どもと一しょに虫さがしをしたり、子
どもがとって来た虫をよるこんで一しょに見
たり、出来るだけ一しょに草つみに興じたり
致しました。私自身が虫など気味わるいとい
う気持が全然なくて、虫さがしなどは好きな
ほうですので、子どもと一しょにすぐ夢中に
なってしまうのですが、先生が気味わるがらな
いことは、大切なことだと思えます。

環境としましては、この幼稚園のお庭は、
大変自然にめぐまれていると思えます。子ど
もが、いつでも自由に草つみの出来る草原が
山の上にありますし、木も多く、そのかげに
虫なども沢山ひそんでおります。また本校の
グラウンドへも度々つれて行くように致しまし
た。又、空びんや空かん、古封筒などを沢山
用意して、子どもがほしい時には自由に使え
るようにしております。

虫などをつかまえて来た時などは、それと

十分に遊ばせてから逃がしてやるように致し
ました。この時に、あまり遊びすぎて、いじ
めたりするようなこともありませんが、そうい
う時は、その時に応じて私が何かヒントを与
えますと、例えば、みみずをころがしていて

遂に半分に切ってしまう、両方がくるくるう
ごいでいるので面白くて又切ろうとしている
時など、みみずがいたいって云ってるわ、み
みずにおふとんをかけてねかせてあげましよ
う。などと云いますと、やあおふとんだ、お
ふとんだ、と面白がって、そばの草をちぎっ
てかけたりして、トントんたたいておしま
いになったり致します。私は、大抵このような
扱いをしてまいりましたが、三年保育で一年
間保育してきた子どもたちでは、残こくに虫
をいじめるようなことは、あまりしないよう
で、かえって、とって来た虫を、大事に大事
にしております。

また、飼育栽培の経験を出来るだけ豊富に
するように努めました。三年保育の時は、じ
ゆうしまつ、せきせいいんこ、金魚、グッピー、
などを飼い、つるなしいんげん、あさが
お、水栽培のものなどを育てました。この時
の世話は、私が主として致しましたが、時々

お子さんも手伝ってくれまして、小鳥のはこべは、お山へ草つみに行った時など、おみやげにとつて来てくれておりました。今年になりましてからは、ひきつつき、せきせいいんこを飼ひ、金魚、おたまじゃくし、はつかねずみなども飼ひ、つるなしいんげん、まつぼぼたんなどを現在育てております。

飼育したりしているものについて感じますことは、矢張り変化のはっきりしているものとか、子ども自身がさわったり、つかんだりして遊べるものでないと興味がつづかないということです。せきせいいんこを昨年一年と、今年もつづいてかっておりますが、全然誰も関心を示さないという日が度々あります。そこで、今年になりましてからお当番をきめて、えさと水のとりかえをすることにしてみましたが、お当番は、えさや水をとりかえることだけに興味があつて、とりかえたらさつと小鳥の方は見もしないで行つてしまふという状態です。しかし、今年の春、中の組になつたばかりの時、はじめの二、三日小使さんの室へあずけておいたことがありますが、その時、三年保育から来た子どもが、時々行つて見ていたという話を小使さんからききまし

て、関心は示さないようにみえていても、矢張り、家族のような感情を小鳥にもつてののだなと思ひ、それでいいのだと思つております。それにくらべて、おたまじゃくしに非常に興味をもつてゐるのは、おたまじゃくしの変化が、はっきりみられることと、私は、子どもにおたまじゃくしを手ですくつて遊ばせておりますためかと思ひます。

すくつてあそぼせることについては、あまり、いじりまわすので、「おたまじゃくしがかわいそうよと申しましたところ、子どもは、「だつておたまじゃくしだつて、遊んで上げなきゃかわいそうだもの」と言いましたので、子どもとしては、いじりまわしてはじめるとこの気持は全然なく、むしろ、その反対であると思ひまして、おたまじゃくしをつぶしたりしないように注意しながら、遊ばせております。

この年令の幼児では、只目で見ることよりも、体を使って、そのものと遊ぶことによつて親しみを持ち、それに従ひ、関心も深まつていくのだと思ひます。

私の努力がむくいられたのかどうかかわかり

ませんが、昨年三年保育で入つた女兒にも、幼稚園に入つてから虫をこわがらなくなりましたという例がありましたし、今年入園の幼児でも、入園して一ヶ月半頃のお話では、最近、道ばたの草に興味を示すようになったという例が男児、女児一名つづあります。また、幼稚園での子どもの遊びをみておりまして、先程お話ししました調査では虫が大きらいという女の子（この子どものお母様も虫が大きらいです）が、最近、「毛虫いなかなあ」と探したりしているようになりました。これは、他の女の子がとつて来た毛虫を、びんに入れておきましたところ、翌日、まゆをつくりました。それで、もう少ししたら、ちようちようが出て来るという話を私がしましたのでたのしみに待つてゐるので、それにしげきされたものと思われませんが、虫をこわがつていた子どもが、自分から虫をさがすようになったことは、大変な変化だと思つております。

× ×

× × ×